

松山が誇る「道後温泉」を世界へ、そして未来へ

1月15日から、道後温泉本館の保存修理工事が始まります。本市ではこれを契機ととらえ、さまざまな取り組みを展開していきます。

名作「火の鳥」とコラボレーション 道後REBORNプロジェクト始動



©TEZUKA PRODUCTIONS

道後温泉本館は1月15日(火)から、営業しながらの保存修理工事に着手予定です。工事中ならではの魅力を広く伝える取り組みとして、道後温泉本館を、復活を繰り返す時代を超えて人類を見守る「火の鳥」の姿と重ね合わせ、手塚治虫さんの名作『火の鳥』とコラボレーションした事業を展開していきます。

その制作発表会が12月9日、道後温泉本館前で野志市長、(株)ポニーキャニオン代表取締役社長・吉村隆さん、俳優・つるの剛士さんが参加し行われました。野志市長は、「この道後温泉本館という宝を次の世代に引き継ぐため、皆さんと力を合わせて保存修理工事を乗り越えていきたい」と思いを語りました。

「道後温泉空の散歩道」が1月7日(月)リニューアル

道後温泉本館南側にある冠山の「道後温泉空の散歩道」がリニューアルし、1月7日(月)午後1時にオープンします。

足湯や東屋、ベンチなどの休憩施設に加え、藤棚や正岡子規の俳句の句碑、四季折々の花などが植えられた庭を設けました。足湯でくつろぎながら道後のまちなや、道後温泉本館



足湯から本館を一望

の全景を眺められ、散策も楽しんでいただける眺望施設です。足湯は6時〜21時まで利用できます。



道後REBORNプロジェクト制作発表会

「道後REBORNプロジェクト」では、古くからの文化財を大切に守り、次代に受け継いでいく、日本文化の「再生」の物語として、道後温泉を全国に、また海外に発信していきます。今後の事業展開(予定) 1月15日(火)〜本館正面入り口に「火の鳥」の到来を告げる「日除け幕」や灯籠を設置、本館入浴券を「火の鳥」のデザインに一新▼2月1日(金)〜明治の改築当時に使用されていた北面「二の湯」入り口の上に、「火の鳥」オブジェを設置、「道後REBORN」×「火の鳥」ライトアップ▼4月(ごろ)〜オリジナルアニメーションの公開

道後温泉本館 1月29日(火)〜31日(木)は臨時休業

道後温泉本館は、1月14日(月・祝)まで、通常どおり営業した後、15日(火)から保存修理工事に着手予定です。

浴室(神の湯)を男女で利用するための工事の後、新たな玄関となる北面入り口からお客さまをお迎えするため、オペレーションや非常時の対応な

道後アート 2019・2020 メインアーティストに 日比野克彦さん



メインアーティスト 日比野克彦さん

道後オンセナート2018は2月28日(日)で会期末を迎え、来年度以降は、1人のアーティストで2年にわたる「道後アート2019・2020」を開催。そのメインアーティストが日比野克彦さんに決定しました。

日比野さんは現在、東京藝術大学の美術学部学部長で、先端芸術表現科教授を務められ、日本美術界の第一線で活躍されています。観光客や住民参加型のアート活動を得意とする日比野さんが、道後温泉にアートの魅力を掛け合わせ、活性化につなげていきます。

道の準備期間として、1月29日(火)〜31日(木)までの3日間休業します。

2月1日(金)からは北面の入り口から入館いただき、入浴のみの営業となります。保存修理工事に伴う本館周辺道路の交通規制に関する情報は、随時、市ホームページなどでお知らせします。

オリジナル フレーム切手の 販売開始



販売中のオリジナルフレーム切手

「道後温泉別館 飛鳥乃湯泉」と「道後温泉本館」を題材にしたオリジナルフレーム切手の販売開始に合わせ、平成30年12月3日に贈呈式が行われました。

贈呈式で野志市長は「手紙を通して遠くの人へ松山の魅力を伝えることができ、松山へ足を運んでもらうきっかけにもなる」と謝辞を述べました。フレーム切手は県内の郵便局で販売しています。

道後温泉事務所 ☎921 0101・FAX 934 3415

「ことばのまち松山」をPR 松山空港の“ことば”をリニューアル



リニューアルした階段の“ことば”

本市では平成19年から、「だから、ことば大募集」に寄せられたことば作品を、「街はことばのミュージアム」と題し、路面電車や空港など市内各地に掲出し、「ことばのまち松山」の魅力在全国に発信しています。

今回、松山空港の階段に掲出していることば作品とデザインをリニューアル。11月23日の記念式典で、野志市長が「ビルの北側と南

「紅まどonna」を全国へ発信 市長が生産地を視察し、トップセールス



山本さんの園地を視察する市長 (11月22日)

青果・花き取扱量日本一の大田市場(東京都)で、野志市長が行うまつやま農林水産物ブランド「紅まどonna」のトップセールスに先立ち、11月22日、興居島の生産地を視察しました。生産者の山本剛さんから紅まどonnaの今年の出来栄などの説明を受け、市長は、「生産者から教えていただいた2つの『く(苦勞と工夫)』、そして生産にかけ



大田市場でのトップセールスの様子 (11月29日)

る熱い思いをしっかりとPRしたい」と話しました。そして、11月29日に実施した大田市場でのトップセールスでは、市場関係者に対し、紅まどonnaの特長と合わせて、生産者の苦勞と工夫について、パネルを使って紹介。生産者の努力を市場関係者に伝えました。試食も市場関係者に好評で、その後行われた「競り」でも活発な取引が行われました。



PRグッズを眺める空港利用者

側で、ちがうことば・デザインになっているので、両方楽しんでほしい」と話しました。

また、空港利用者へ、ポストカードや「ことばのコバト」プロジェクトのPRグッズなどが配られ、手にした人を楽しませました。

文化・ことば課 ☎948 6952・FAX 934 12007